



Q&A

JICA

に聞きたい!

Q

授業で途上国について教えたい、 どうすればいい?

「開発途上国が抱える課題や、自分と世界とのつながりについて考えてほしい」。そんな思いで子どもたちへの教育を実践する先生のために、JICAはさまざまなメニューを提供している。



(上) 研修の成果を踏まえ、学校で開発教育の授業を実践する教員
(左) 訪問したラオスの小学校で、子どもたちと交流する教師海外研修の参加者

JICA地球ひろば
市民参加協力促進課

樋口 創

PROFILE

大学院修了後、2005年JICAに就職。無償資金協力部(当時)、カンボジア事務所での研修、人間開発部を経て、08年5月より現職。



「先生方の開発教育の実践が 実りあるものになるよう、お手伝いしています」

より効果的な開発教育の指導法を学びたい方には、「開発教育指導者研修」がおすすめです。JICAの各国内機関が地元のNGOなどと連携して実施しており、参加型の学習

も安心して参加できます。また、帰国後の授業の実践までJICAが継続的にサポートしており、開発教育に興味があるけれど、何から始めたらよいか分からない、という方でも安心して参加できます。

代表的なものに、途上国を訪問し、人々の暮らしぶり、JICAや現地で活躍するNGOの活動などについて学び、帰国後、その経験をもとに実際に授業を行う「教師海外研修」があります。派遣前の研修から帰国後の授業の実践までJICAが継続的にサポートしており、開発教育に興味があるけれど、何から始めたらよいか分からない、という方でも安心して参加できます。

「開発途上国の同年代の子どもの生活をしてるんだらう」「普段何気なく食べている食材は、どんな国からやって来るのだろう」―開発教育(国際理解教育)では、日本での私たちの暮らしにもつながる身近なテーマから、世界の現状や途上国の課題、多様な価値観・文化などを扱っています。

先生のためのJICAの開発教育メニューはこちらから!

JICA地球ひろば「教育関係者の方へ」
<http://www.jica.go.jp/hiroba/educator>

お気軽にご相談ください!

国内機関連絡先
<http://www.jica.go.jp/about/structure/organization/domestic.html>
国際協力推進員
<http://www.jica.go.jp/about/structure/organization/suishin>

を通じて多彩な開発教育の取り組みについて紹介するほか、具体的なプログラム作りも経験できます。また、先生方が授業で活用できる補助教材も作成しています。環境問題や感染症など、身近に迫る地球規模の課題をマンガで学ぶ「壁新聞」、学校に行けない途上国の子どもたちの現状をイラストで分かりやすく解説した小冊子「学校に行きたい!」など、総合学習の時間にもぴったりの各種教材をそろえています。さらに、JICAボランティアの経験者やJICA職員が直接学校を訪問して授業を行う「国際協力出前講座」では、途上国の現状、人々の暮らしや文化、歌やクイズを盛り込んだワークショップなど、多彩なプログラムを実施しています。まずはJICAの国内機関や、各都道府県に配属されている国際協力推進員にご相談ください。そして、子どもたちの国際理解への第一歩を後押しするため、お気軽にJICAを活用してください。